

タウンミーティング 開催実績

資料 2

開催日時・場所	平成28年1月17日(日) 午前10時～午後0時15分、市役所4階大会議室
参加者	主催者側 市長、副市長、福祉部長、福祉部高齢施策課職員3名(課長、課長補佐2名)、介護保険課職員2名(課長、主幹) 参加者側 市民54名
テーマ	超高齢社会に対応可能な交通費助成制度及び高齢者福祉施策のあり方について
ミーティングの概要	市長が別添の資料3にて生駒市の高齢者の現況及び今後の状況について、また、現在実施している交通費助成の課題等や本制度に変わる高齢者福祉施策の今後の方向性について説明した。その後、現在実施している交通費助成について参加者(市民)から賛成の立場、反対の立場、それぞれの立場で意見を出していただき、それに対して市長が回答した。

今後の方針について出席者から出された主な意見

見直し賛成	<ul style="list-style-type: none">・ある程度の制限をして、若い人を支える施策を考えるべきである。・ごみ袋有料化の収入と同額の支出は対象者の数からも見直しが必要である。・自分で取りに来られる人にだけ支給するか、若い人のためにお金を使ってほしい。・交通費助成をすぐに廃止すると反発も多いので、今年5,000円で来年に廃止してはどうか。・対象者が効果的に使っていると思えないので、廃止して子育て・教育にまわすべき。・廃止に賛成。有効な高齢者福祉施策に使って欲しい。
見直し反対	<ul style="list-style-type: none">・高齢者への恩返しという趣旨からも制度を続けるべきである。・元の15,000円に戻してほしい。・年金も減らされており、財政が健全なら現行制度を維持してほしい。・買い物や病院通いのためにも継続すべきである。・コストよりも、もらうことで感じる気持ちを考えて・高齢者の施策は後退している。高齢者を大切にする施策は継続して欲しい。・制度の存続希望。治療のための交通費に使っている。
どちらでもない	<ul style="list-style-type: none">・助成はいいが、後払い方式を採用するなどチェック方法を考えるべきである。・効果的な高齢者福祉施策として、寿大学の充実・支援をしてほしい。・いかに有効利用させるかであり、交通弱者・買い物難民に対する支援が必要。寿大学などを支援して欲しい。・対象年齢を75歳にして、介護認定度などで判断しては。サロンの拡充と寿大学卒業生などの活用。・このような大切なことはもっと市民の意見を聞くべきである。・アンケートの対象に若い人を入れるのはおかしい。・新年度は具体的にどうするのか
その他	<ul style="list-style-type: none">・リニアなど緊急性のない予算を削って東山駅にエレベーターをつけてほしい。・RAKU-RAKUはうす使用料の高齢者負担に疑問である。・高山地区第2工区の土地を買わずに高齢者福祉にお金を使って欲しい。・高齢者の健康維持のため、公園に健康関連器具を設置して欲しい。